

エコチル調査とエコチルサイエンス

エコチル調査とエコチルサイエンスに関してはメールマガジン16号および前回の21号でもご紹介いたしました。環境省が中心となって行う全国調査であり、旭川医科大学でもその一端を担っておりまます。母体で成長する胎児が13歳になるまで、子供達の成長と環境要因の相関を調べる壮大な調査研究です。最近、その調査年齢を18歳まで延長したため、中高生の成長と環境要因の相関も調べることが可能になりました。

この調査研究にずっとご協力いただいた親子に何かしらお礼をしたいということで、旭川医科大学ではワクワクサイエンスのイベントをエコチル調査に参加していただいている親子に対して提供しております。本校なども関わっております企画ですが、子供たちの科学に対する興味や関心を伸ばしていくける企画として好評を博しています。

特に、本校が提供するリハビリテーション体験は体の仕組みを学ぶというきっかけになったり、脳トレのようなゲーム感覚で体験できる内容です。そのため、子供たちだけでなく保護者にも大きな関心を感じてもらいます。

近年、人口減少に加えて、子供達の環境が心身の成長に少なからず影響するという考え方方が次第に定着しているため、職業としてのリハビリテーションにも多くの期待が寄せられています。しかしながら、世間一般を見ると、そのような可能性に関してはまだまだ認知度が決して十分ではないとも言えます。

私たち教職員は、社会に活躍する医療従事者の輩出を目指しており、より多くの若い方々が近未来に有益な役割を担うリハビリ職や看護職に興味を持っていただきたいと願っております。

以下の写真は、本校出展ブースにおける親子づれに説明している様子（写真A～C）ですが、肖像権や個人情報保護の観点から、写真ではなくイラストで状況説明させていただいております。理学療法学科のブース（写真B）では、一揃いの人骨モデル標本で骨格全体の配置を学んでもらう内容です。作業療法学科（写真C）では、脳トレにもなる様々な作業を体験してもらう内容です。子供達だけでなく保護者も挑戦したり、質問される方々も多くおられます。

